

Green Brave

#52 埼玉 GB GR Supra GT4 EVO2

2026年4月18日(土) ~ 19日(日)

BRIDGESTONE

SuperTaikyū

Japanese Endurance Race

ENEOS

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2026 Empowered by BRIDGESTONE 第2戦

SUZUKA 5時間レース (5時間レース) 鈴鹿サーキット (三重県鈴鹿市)

■序盤の緊急ピットインにより悔しい 11 位■

第2戦のレース時間は5時間。ジェントルマンドライバーの松井選手とGBドライバーの野中選手、服部選手、吉田選手の4人が出場しました。ST-Zクラスのエントリー台数は12台。

土曜日(予選日)の天候は晴れ。Aドライバーの予選は14時20分から行われ、松井選手が3周目に2分10秒867のトップタイムをマーク。あとからアタックを行った#25日産Zに抜かれたものの、2位で予選を終えました。続くBドライバーの予選は1時間後の15時20分から行われ、野中選手が2周目に2分08秒905のトップタイムをマーク。2位の#25日産Zに約1秒差をつける文句なしのコースレコードで、今季初のポールポジションを獲得しました。Cドライバー服部選手とDドライバー吉田選手は決勝を見据えた確認走行を実施。木曜日の走り出しこそ、4人のドライバーはクルマの感触に不満を感じていましたが、チーム一丸となってセットアップ変更を行った結果、パフォーマンスが大きく向上しました。なお、#25日産Zは予選後の車検で違反があり、失格となっています。

日曜日(決勝日)の天候も晴れ。5時間の決勝では、3回のドライバー交代を伴うピットイン義務とAドライバーの松井選手には1時間15分の運転義務があります。チームはスタートドライバーに吉田選手を起用。レースの展開を見ながら松井選手、服部選手、野中選手につなぎ、優勝を目指します。12時04分にスタートがきられ、吉田選手はトップをキープして1周目を終了。2位は予選3位の#338GR Supraで、予選2位の#20日産Zは3位に後退しています。吉田選手のペースは良好で、周回を重ねるたびにリードを拡大。後方では#20日産Zと#22ポルシェが#338GR Supraに追いつき、2位集団を形成しています。わずか12周で#338GR Supraとの差は10秒以上に拡大。スタートから1時間が経過した26周終了時点での両車の差は約19秒で、吉田選手はさらに引き離します。

37周目、約1時間20分の走行を終えた吉田選手がピットイン。松井選手に交代し、給油とタイヤ交換を行いピットアウトします。コースに復帰した松井選手の順位は3位。翌周には上位2台がピットインしており、トップに復帰すると思われましたが、コックピット内の操作機器にトラブルが発生。松井選手は39周目にピットに戻り、修理が始まります。部品交換に約10分を要し、松井選手が乗り込みピットアウト。順位はトップから5周遅れの12位(最後尾)で、上位フィニッシュは難しい状況です。修復は完了しており、松井選手は安定したペースで走行。11位の#15GR Supraとは2周差がついており、どこまで追い上げられるかに注目が集まります。

71周目、運転義務時間をクリアした松井選手がピットイン。服部選手に交代し、店舗メカニックが給油とタイヤ交換を行いピットアウトします。コースに復帰した服部選手の順位は変わらず12位。この時点での残りのレース時間は約2時間です。服部選手も安定したペースで

約1時間走行し、100周目にピットイン。野中選手に交代し、給油とタイヤ交換を行いピットアウトします。野中選手の順位は12位のまま。しかし、あきらめることなく全力で走行し、11位の#38GR Supraより速いペースで周回します。同一周回に戻ると116周目にパス。野中選手はあきらめることなく10位の#15GR Supraを追いかけます。しかし、残り時間はわずかで、126周目にチェッカー。不本意な11位フィニッシュとなり、獲得ポイントはわずか3点。この結果により、ランキングは5位に後退しました。

決勝結果 (ST-Zクラス)

#52 埼玉 GB GR Supra GT4 EVO2

(松井宏太/野中誠太/服部尚貴/吉田広樹)

決勝 11位 (126周、5時間02分05秒715)

予選: 1位 (合算タイム: 4分19秒772)



DRIVERS VOICE

松井宏太選手

正直、最初は何が起きたかわかりませんでした。アクセルペダルが戻らなくなったのですが、自分の足で戻すことができる状態でした。ブレーキを踏みながらピットに戻ったのですが、本当に運が悪かったところどころに尽きると思っています。吉田さんがマージンを築いてくれたので、うまくいけば表彰台争いができていたと思うのですが、みなさんがいろいろなところを組みながらやってくれているので、ここからいろいろなところを洗い出してもらい、シーズン最後に良い結果になればと思います。

野中誠太選手

トラブルが出たのは残念でした。ぼくが乗った時はもう直っていたので、影響はなく、淡々と前を追っていました。レースなので仕方なく、誰のせいでもないのですが、受け入れるしかありません。自分が乗っている時はいつも同じなので、全力で走り切る、それだけでした。クルマのパフォーマンスはすごく高かったので、変なトラブルやアクシデントに巻き込まれないように気をつけて走っていました。24時間はしっかり勝ち切って、ランキング上位に行けるように切り替えたいと思います。

服部尚貴選手

アクセルペダルにトラブルが出ちゃいました。ドライバーの宏太とクルマが無事に戻ってくれて良かったです。部品を交換して出たのですが、5周以上遅れてしまったのではないですね。次は富士 24 時間ですが、こういうトラブルが出ると、ポイント的にも痛いレースなので、きっちり一番前を狙っていきたく思います。ポイントをあまりとれなかったのは残念ですが、次の 24 時間はサクセスウェイトが少ない状態で戦えるので、それをうまく利用したいと思います。

吉田広樹選手

暑い中でもスタートから良い感じで走れました。もちろん、それなりの難しさはあるのですが、まわりのクルマに対してしっかりアドバンテージを感じられるぐらい、良いクルマをチームが用意してくれました。せっかくマージンを作れたので、それをうまく活かせば良かったのですが、これだけとはいうトラブルなので、仕方ないですね。ぼくのステイメントの時はまったく兆候がなくて、最後まできっちり走れたので、問題はありませんでした。今回は運が悪かったという感じです。

ST-Z クラス 決勝結果

順位	チーム	周回数
1 位	#22 KOKUSAI GROUP GT4 RS CS (ポルシェ ケイマン GT4 RS CS)	131 周
2 位	#25 日産メカニクチャレンジ Z NISMO GT4 (日産 Z NISMO GT4)	131 周
3 位	#34 TECHNO FIRST R8 LMS GT4 (アウディ R8 LMS GT4)	131 周
4 位	#885 シェイドレーシング GR Supra GT4 EVO2 (トヨタ GR Supra GT4)	130 周
5 位	#338 GR Garage Balakong GR Supra GT4 (トヨタ GR Supra GT4)	130 周
6 位	#20 NANIWA DENSO IMPUL with マツモトキョシ Z (日産 Z NISMO GT4)	130 周
11 位	#52 埼玉 GB GR Supra GT4 EVO2 (トヨタ GR Supra GT4)	126 周

出走 12 台 トップ 6 まで

ST-Z クラス ポイントランキング

順位	車番	チーム	ポイント
1 位	34	TECHNO FIRST	38
2 位	22	KOKUSAI GROUP SPORTS TEAM	38
3 位	25	TEAM ZEROONE	34.5
4 位	885	SHADE RACING	25
5 位	52	埼玉 Green Brave	18
6 位	338	WING HIN MOTORSPORTS JAPAN	16

上位 6 位まで

[次戦予告] 6月5日~7日 富士スピードウェイ (静岡県小山町)

Säkkijärven Pöytäkirja MP@EMN



赤城車体工業株式会社



株式会社アルシエ



アルファクラブ武蔵野株式会社



株式会社 FM NACK5



株式会社岡崎巧芸



株式会社カーガラス・JP



埼群スリーボンド株式会社



株式会社三和広告社



JU 埼玉オートオークション株式会社



株式会社西武ライオンズ



株式会社セーフティライフ



ティーズ・ワークス



株式会社デンソーソリューション



東京キリンビレッジサービス株式会社



トヨタホーム東京株式会社



トヨタモビリティパーツ株式会社 埼玉支社



富士フイルムビジネスソリューションジャパン株式会社



マックメカニクスツールズ株式会社



丸和工業株式会社



Mechanix Wear LLC



株式会社リビコー